氏名	浅井　宏美	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学、助産学、周産期医療・看護、新生児看護				
学位	博士（看護学）				
学歴	2001年茨城県立大学保健医療学部看護学科卒業、2008年聖路加看護大学大学院看護学研究科博士前期課程修了、2015年聖路加国際大学（旧聖路加看護大学）大学院看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	2008年～首都大学大学健康福祉学部助教、2010年～聖路加看護大学看護学部助教、2015年～埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年～同大学准教授				
所属学会（役職）	日本母性看護学会（査読委員）、日本助産学会、 日本看護科学学会、日本母性衛生学会、日本小児看護学会、日本新生児看護学会、日本生殖看護学会、日本看護シミュレーションラーニング学会、日本国際看護学会（第7回学術集会企画委員）				

【2023年度実績】

1．研究業績

（1）著作

	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	助産師基礎教育テキスト2024年版 第6巻 新生児期・乳幼児期のケア 第4章 新生児のニーズとケア	共著	あり	日本看護協会出版会；P.186-210	編集責任 江藤宏美，著者　岡永真由美，常盤洋子，井村真澄，浅井宏美，他7名	2024.2.1

（2）論文

	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし						

（3）学会発表

	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は〇印）	発表等年月
1	産褥早期のアロマセラピーの効果に関する文献レビュー	共同	第25回日本母性看護学会学術集会、東京都江東区	〇松浦冬瑚、浅井宏美	2023.5.28
2	多胎児の育児の実態と育児支援に関する文献検討	共同	第25回日本母性看護学会学術集会、東京都江東区	〇小山さらら、浅井宏美	2023.5.28
3	病院助産師が抱く養育支援に関する結果票への認識	共同	第25回日本母性看護学会学術集会、東京都江東区	〇内田順子、兼宗美幸、浅井宏美、齋藤恵子	2023.5.28
4	妊娠・出産による腰痛・骨盤痛への関連因子および軽減のための効果的な介入に関する文献検討	共同	第64回母性衛生学会学術集会、大阪市	〇中里美和、浅井宏美	2023.10.13
5	母親の産後ケア事業利用経験に関する父親の認識	共同	第64回母性衛生学会学術集会、大阪市	〇箭内清美、兼宗美幸、浅井宏美、鈴木幸子	2023.10.13
6	周産期看護職対象の「ファミリーセンタードケアの実践」に関する教育プログラムの開発	共同	第32回日本新生児看護学会学術集会、横浜市	〇浅井宏美、齋藤香織	2023.11.3
7	超低出生体重児の NICU 退院後に母親の母乳育児継続を支えた原動力	共同	第39回埼玉県母性衛生学会総会・学術講演会、さいたま市	〇野口香、兼宗美幸、浅井宏美、齋藤恵子	2023.11.11
8	多文化共生社会の推進を目指した周産期看護職対象のプログラム「やさしい日本語」試行研修会の実践報告	共同	第43回日本看護科学学会学術集会、下関市	〇浅井宏美、齋藤恵子、千葉真希子、森美紀、山口乃生子	2023.12.10
9	高校生ヤングケアラーの支援者間連携に関する課題	共同	第43回日本看護科学学会学術集会、下関市	〇辻玲子、水間夏子、上原美子、浅井宏美、常盤文枝	2023.12.10
10	分娩介助実習直前の助産学生における模擬産婦シミュレーション演習前後の実習意欲の変化	共同	第５回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会、東京都荒川区	〇東原亜希子・柴田由里子・山本英子・森美紀・兼宗美幸・齋藤恵子・浅井宏美・千葉真希子・斎藤未希・堀口香織・鈴木幸子	2024.2.12

（4）その他

	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は〇印）	発表等年月
1	看護学を構成する重要な用語集(JANSpedia)への用語「ファミリー・センタード・ケア」の採択（受理番号23-	単著	日本看護科学学会学術用語検討委員会へ申請・受理	〇浅井宏美	2023.12.25

2．競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究B）	e-learningおよびピアサポートを活用した周産期看護職の教育プログラムの開発	研究代表者	2016.4～2024.3
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）	高校生ヤングケアラーのQOLに資する支援者間連携モデルの構築	研究分担者	2023.4～

3．教育業績

（1）講義

	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ハイリスク周産期	〇	8	4年次生（助産系履修者必須、他は選択科目）を対象に、ハイリスク妊産婦・新生児への看護ついて講義し、事例や病棟内でのケアの画像、DVD教材などを活用し、実際の看護について理解が深められるよう工夫した。また、臨床で活躍する産婦人科医・看護職を非常勤講師・ゲストスピーカーとして招き、より実践的な内容が学生に伝わるような工夫をした。
2	母性看護学Ⅱ（方法論）		5	①では、基本的な観察方法アセスメント、看護技術について講義し、新生児の実際の映像を活用し、理解が深まるよう工夫した。②では、遺伝医療に関する基礎的な知識、出生前診断・遺伝子検査などを受ける対象の理解、ケアの視点やNPO支援団体などについても紹介し、遺伝医療にまつわる課題を幅広く理解できるよう工夫をした。
3	看護倫理		3	大学院博士前期課程の科目担当者として「研究倫理」および「生殖医療・周産期医療における倫理調整」の講義を担当。本科目は教員の講義に加えて、ゼミ形式で倫理調整が必要となる各テーマに沿った院生のプレゼンと討議を通して、倫理的課題を理解するものである。討議では、倫理的課題を多角的な視点から分析、捉えることができるようファシリテートし、お互いの意見を尊重し、自身の倫理的感受性を高められるよう支援した。

（2）演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	分娩期のケア		25	4年助産系学生を対象に出生直後の新生児のケア演習の主担当、内診技術演習、分娩期の看護の演習、助産過程の演習を担当。当日の演習前に電子教材での事前課題を課すなど遠隔と対面での学習を組み合わせて学習効果を上げるを工夫した。分娩介助実習の前に知識・技術が定着するよう、時間割のコマ以外にも学生の介助技術練習への個別の指導なども実施した。
2	周産期のケア		15	3年次助産系履修学生を対象に、講義では妊娠期・胎児のヘルスアセスメントとケアについて担当し、画像を多く取り入れた講義スライド、DVD教材などを活用し、理解が深められるよう工夫した。また、模擬集団教育のための教育指導案や教育媒体作成の指導を行い、グループ毎の発表会を通して、お互いの成果物に関する情報共有、評価を行い、実践的な学びにつなげることができた。
3	母性看護学Ⅱ（方法論）		9	2年次生を対象に、小グループに分かれての技術演習では、新生児モデル人形や乳房モデルを用いて、進行性変化の観察とアセスメント、授乳支援についてのロールプレイ（褥婦・看護者役）のデモと解説、演習を通して基本的看護技術が修得できるよう指導・支援した。また、看護過程のグループ演習の担当教員として効果的な議論ができるようファシリテート・支援した。

4	助産業務管理	○	8	助産系4年次生を対象に助産業務管理はじめ、助産師のコアコンピテンシー・キャリアラダー制度などの卒後教育など、卒後も見据えて助産師として実践する意欲を高められるよう講義を組み立てた。具体的には、本学卒業生で、臨床で活躍する周産期母子医療センターの助産師をゲストスピーカーとして、身近なロールモデルから実践的な内容を講義してもらい、災害時の母子支援と助産師の役割についての演習も実施した。また、助産系の履修科目の総まとめとして、国家試験対策講義なども取り入れ、円滑な科目運営が行えるよう担当教員とも調整を図った。
5	遺伝と看護		8	4年次生を対象に本科目への目的意識・意欲を高め、主体的な参加を促すため、導入となる初回講義や効果的なグループダイナミクスが働くような工夫とファシリテートを行い、看護職者として必要な倫理的感受性・態度が身につくよう支援した。また、障がいを持つ子ども育てる当事者をゲストとして招聘、体験談の語りから学生への効果的な学びにつながるよう調整し、円滑な科目運営が行えるよう他の担当教員とも調整を図った。
6	看護学演習（リプロダクティブヘルス）		15	本科目は大学院博士前期課程の科目であり、生涯を通じた女性の自己決定とセルフケアの向上を目指した女性の健康支援の方法を学びながら、履修者自身の修士論文研究計画書を作成するための科目である。前期の「リプロダクティブヘルス論」に続き、ゼミ形式での文献抄読を通して、プレゼンテーションスキルや論文のクリティーク（批判的吟味）の手法を学べるよう支援した。また、自身の研究テーマが有意義かつ新規性のある具体的な研究計画書となるよう調査方法についても倫理的配慮として講じる具体策、実現可能性の観点から、他の担当教員と共に具体的、多角的に助言・指導を行った。

（3）実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習		2023/5/9～6/30（8週間のうち3週間の病院実習担当）	3年次生を対象に、春日部市立医療センターおよび川口市立医療センター産科病棟での母子受け持ち実習の指導を行った。COVID-19禍にて久しぶりの臨地実習で不安の大きい学生に対して、安全確保に留意し、個々のレディネス・能力に応じた受け持ち対象者への看護実践、看護過程の記録展開指導、カンファレンスの運営指導等を行い、概ね例年通りの目標達成ができた。
2	総合実習（母性看護学領域）		2023/7/11～7/23(3週間の病院実習担当）	4年次生を対象に獨協医科大学埼玉医療センターでの実習を引率・指を担当した。COVID-19禍にて前年度に臨地実習経験が少なく不安の大きい学生に対して、安全確保に留意し、個々のレディネス・能力に応じた受け持ち対象者への看護実践、看護過程の記録展開指導、カンファレンスの運営指導等を行った。事前事後学習および3週間の実習指導を通して、4年次の実習目標を達成し、期待した学習効果を上げることができた。
3	助産学実習Ⅱ		学外実習： 2023/8/14～9/29(6週間)	まだCOVID-19感染予防対策が続く臨床において、4年次助産系履修学生４名（2施設、各2名）を実習施設担当教員として担当した。補習期間なしの6週間で、COVID-19禍以前の例年よりは分娩介助例数は少なかったものの、2022年度と同様、それまでの学内代替演習等の教育効果や臨床指導者の効果的な指導により、産婦に対する分娩進行状況のアセスメントとケア、分娩介助技術について、臨床側からの評価も高く、期待していた実習目標を達成することができた。
4	IPW実習		学内実習： オリ２コマ＋実習4日間	2022年度まで遠隔実習が続き、久しぶりの対面実習となり、２チームの施設のリーダーFT教員として、実習施設（草加市立病院）の施設FTおよび学内教員FTと入念な打合せ・調整をして運営に臨んだ。受け持ち対象者や多職種の専門職インタビューを通して、もう１名の担当教員と協力し、他大学含む学部学生6名×２グループの引率、実習指導を行った。施設FTとの連携・協働を心がけ、グループ討議では、主体性を尊重しつ、学生の能力を引き出し議論が活発になるようなファシリテート行い、チーム形成を促し、最終成果物として最終発表会へとつなげることができた。

（4）論文指導

	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	看護学科 卒業論文	2023.3～2023.12	主指導　4 名	副指導　名
2	大学院看護学専修 修士論文	2022.4～2024.3	主指導（指導教員）　名	副指導（指導補助教員）　1 名
3	大学院リハ専修 修士論文審査	2024.1～2024.2	審査（主査）　名	審査（副査）　1 名

（5）その他

	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	３・４年生助産系関連科目履修者の学修支援・就職活動支援	2023.4～2024.3	助産系関連科目の担当教員として、３・４年生の助産系履修者の学修支援・就職活動を支援した。
2	３年生助産系関連科目履修者の学修支援・就職活動支援「就職活動ガイダンス１」統括	2023.7.5 (2023.5～7)	卒業生との交流を通して、履修モデルごとの就職活動についてイメージを明確にし、動機づけとした。本学就職支援動画を配信し各自視聴後、マイナビより就職活動・インターンシップ説明、卒業生のメッセージおよび交流会と生の声を直接聴ける機会を設けた。
3	３・４年生助産系関連科目履修者の学修支援・就職活動支援「３・４年生履修モデル別交流会」	2023.10.20 (2023.7～10)	就職が内定している4年生との交流を通して、履修モデルコースごとに今後の学習や学生生活の特徴を理解し、就職活動に向けての準備・動機づけとなるよう機会を設けた。
4	３年生助産系関連科目履修者の学修支援・就職活動支援「就職活動ガイダンス２」統括	2024.1.18 (2023.10～2024.1)	就職活動や採用試験の現状を知り、準備を整えた。ナース専科より現在の就職状況等の説明や自己PR・志望動機についての情報を提供、また担任教員の体験談を聴講した。
5	事務局就職支援担当・学生キャリアスタッフによるプロジェクト「教えて！先生のキャリア2023」執筆・撮影協力	2024.1.26完成 (2023.11～2024.1)	学生の自己分析やキャリア・進路支援の一環として、教員が進路を決定した経緯や就職活動について、学生へのメッセージを記載する企画にインタビュー・執筆・撮影協力をした。
6	３年生助産系関連科目履修者の学修支援・就職活動支援「就職活動ガイダンス３」統括	2024.2.15 (2023.11～2024.2)	県内施設の理解を深め、自己の就職先決定に役立てる「県内施設就職説明会」。県内23施設来校、各施設ごとにブースにて対面形式での説明・相談会を開催。

4．社会貢献活動

（1）講演会、研修会、公開講座等の講師

	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	高校出張講座（埼玉県立川口北高校）	本学地域産学連携センター	大学模擬講義（進路指導の一環）「新生児・未熟児の看護-赤ちゃんの集中治療室ってどんなところ？」	2023.10.25
2	高校出張講座（群馬県立館林女子高等学校）	本学地域産学連携センター	大学模擬講義（進路指導の一環）「新生児・未熟児の看護-赤ちゃんの集中治療室ってどんなところ？」	2023.11.7
3	本学地域産学連携センター オープンカレッジ講座	本学地域産学連携センター	SPU TABUNKA MANABI Café	2023.10.28
4	本学地域産学連携センター オープンカレッジ講座	本学地域産学連携センター	第１回産科スタッフのための『やさしい日本語』研修会	2023.12.16
5	本学地域産学連携センター オープンカレッジ講座	本学地域産学連携センター	第２回産科スタッフのための『やさしい日本語』研修会	2024.2.17
6	本学地域産学連携センター オープンカレッジ講座	本学地域産学連携センター	多文化共生コスモ越谷と埼玉県立大学（多文化学びカフェ）協働イベント「インターナショナルひなまつり」	2024.3.2

（2）国、自治体、学術団体等における委員等

	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	一般社団法人 日本国際看護学会 第7回学術集会	一般社団法人 日本国際看護学会第7回学術集会 事務局長兼実行委員（企画・運営担当統括）	2022.12～2023.12
2	一般社団法人　日本母性看護学会	「日本母性看護学会誌」専任査読委員	2019.4～現在
3	一般社団法人　日本看護科学学会英文誌 Japan Journal of Nursing Science編集委員会	日本看護科学学会英文誌の査読	単発での査読依頼
4	草加市立病院 看護部の外部講師	看護研究の講義および個別の研究指導(6病棟担当)	2022.4～2024.3
5	草加市健康づくり課	「草加市健康づくり審議会」委員	2022.4～現在

（3）ジャーナリズムでの発言

	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		

（4）その他

	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	学会誌Japan Journal of Nursing Science - Wiley Online Library	論文査読	2022.4～2024.1

5．学内運営

	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	研究開発センター2023プロジェクト「多文化共生社会における外国にルーツを持つ子育て世代への包括支援推進のための実践研究」メンバー	2022.4～2024.3
2	学科等における委員会等	看護学科内のカリキュラム検討委員会のメンバー	2021.4～2024.3
3	学生支援	3年生担任，就職支援PJ担当	2022.4～現在

6．受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）

	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		

7．特許の取得

	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		

8．特記事項

1	該当なし